

今なら間に合う優先すべき対策とは 公共LED化で年間数千百万円の削減

先週、山口県長門市に飛んで、春先からアドバイスしてきた「リースを活用した全市公共施設のLED化」の入札に参加し3社競合の上で落札した。令和5年度予算が決まってすぐの6月議会で諮ったことに苦勞したそうだが、評価されるべき決断と実行のスピードであった。そのついでに周辺市町村を訪問したのだが、中国電力の120%を超える業務用電気料金値上げ対策として、LED化への関心は非常に高いものだった。ところが驚いたことに、出雲地方のある市では、すでに7月中旬に9月議会の議案エントリーが締め切られてしまい、LED化の取り組みは12月議会以降になるといふ。長門市での試算では第1弾となる30施設のLED化だけでも年間3000万円の削減となり、1ヵ月早く工事

を終わらすと月270万円の財政削減につながる。

4月からの電気料金値上げからすでに4ヵ月が過ぎ、全国で恐ろしい額の財政逼迫が起きていて、本来教育や福祉に使われるべき税金が電力会社に収められている。

当たり前の省エネ対策として7割もの無駄な電気、無駄な税金を使い続けている古い照明をLED化する議決が全国で広がっている。9月議会に決議を間に合わせれば町中の電気工事業界の協力で年内でのLED化が可能である。

現に長門市では8月中旬にすべての小中学校をLED化して、12月までに第1弾を終わらせてしまおうスピードで取り組んでいる。しかし、出雲地方のこの市ではやる気は満々で、やり方も指導したにもかかわらず、硬直

本的な対策はない。10億円の津波タワーを建設してもどれだけの人が助かるか。

それよりも全町民にライフジャケットを配布して30秒でしっかり着装した上で走り出す訓練を行った方がよい。厳しい現実の中でも確実に生存者を残す方法であり、そのために世界中の航空機とフェリー船がライフジャケットを積み込んでいる。

100万分の0・41の確率で事故を起こす(国際航空運送協会発表)飛行機に積んでいるのに、数十年のうちに押し寄せる津波に備えない判断はない。厳しい現実だが、奥尻地震でも東日本大震災でも知床観光船事故でも何年かかってもご遺体を回収するまでが防災担当の役割になる。ウレタンのライフジャケットをきちんと着装していれば2ヵ月は浮いているというのがメーカーの説明だった。

9月議会に間に合わないならば、とりあえず沿岸部の学校と保育園と介護施設に人数分のラ

イフジャケットを配備し、その後ハザードマップの優先順位で予算化していけばよい。1着数千円で子どもの命を守る予算に文句をつける議員もいるはずがない。そうすよね。

今すぐできる停電対策

9月議会で提案すべきはブラックアウト対策である。本州では水害や台風による長時間停電が起きており、道内では鉄塔事故で真冬に紋別地区での停電があった。

ブラックアウトから4年、避難所の自家発電配備も進んだはずだが、最も簡単な自家発電はコンセント付きのハイブリットカーである。今トヨタ車の新車はすべて1500Wh容量のコンセントが付いており、ガソリン満タンならば4日間の給電が可能である。

今は半導体不足で納車時期も未定とのことだが、自治体の公用車は全てコンセント付きのハイブリット車に変えるべきであ



危機管理コンサルタント

越智文雄の

時論・持論・自論

〈第16回〉9月議会に向けて今なら間に合う優先対策

した議会日程のために1000万円を超える無駄な税金を使い、今すぐやれる省エネ行動をとれずにいる。

自治体によって日程は違うそうだが、道内自治体も8月には首長査定が入り9月の議案が決まってしまうそうなので、まだ間に合うならばぜひ議案に押し込んでほしい。本稿をご覧になっている首長、原課、議員の皆様はなんとか間に合わせるよう首長室で話題としていただきたい。

防災訓練にライフジャケットを

本号が発行される頃には9月の防災月間の訓練も準備されていると思うが、今年には千島海溝・日本海溝地震による津波対策を盛り込んでいただきたい。

今年は奥尻島を襲った北海道南西沖地震から30年。30級の津波で202人の犠牲者が出た災害である。本誌に何度か寄稿しているがこの規模の津波に抜

る。ちなみに北海道では電気自動車はお勧めしきれない。放電してしまえば走らない。1500Whあれば照明もテレビもパソコンも携帯充電も炊飯も給湯もできる。北見赤十字大学での真冬の宿泊訓練では車1台から60枚の電気毛布で暖をとることができた。

避難所に2台のプリウスがあれば煌々とした快適な避難生活が可能となる。新規の購入が難しくても地域のディーラー店と連携協定を結ぶことで多くの避難所が救われる。今ならばコンセント付きプリウスで避難してやる町民や職員も多いのではなか。首長の車をアルファードにしておけば緊急時のエアフォースワンとしても使える。

ただし避難所に人工呼吸器や吸痰機を持って避難される方にとっては電圧の維持が大事であり、車の場合は使い放題で、電圧が下がる問題を克服しなくてはならない。そのために電流制御のインジェクターと警告ブザ

ーをつけた給電キットを開発している。避難所で活用してくれる自治体には寄贈しているのでお問い合わせいただきたい。(次頁参照)

詳しくは(あかりみらい防災・停電)を検索いただきたい。

侵略国と隣接する危機意識

週刊『ビッグコミック』連載の「空母いぶき」が緊迫を深めている。ロシアが稚内自衛隊基地を占拠し、道東沿岸で自衛隊艦隊とロシア艦隊が戦闘に入り海上戦で負けたロシアはついに択捉島、国後島、千島列島松輪島、樺太南部、ハバロフスク北のミサイル基地を臨戦態勢にさせるところまでが8月10日号。

シリーズ830万部が読まれている人気コミックだが、さてこのシチュエーションに道も国もなにを備えているのか。

沖縄では台湾有事のシエルトー建設が真剣に議論されている。ラピダスに水を差すわけではな

いが、3・7キロメートル隣に侵略国があることは明らかで、行政も議会もメディアも道民自身にも危機意識がないのはいかなる国民性か。台湾有事にはロシアも連動するであろうことは軍事専門家が等しく指摘するところである。

自衛隊北部方面は想定している。それでは道と自治体の危機管理マニュアルは北朝鮮ミサイルのJアラート対応以降更新されていくだろうか。

根室や標津から上陸してくるといふ小説もあり、石狩から上陸し札幌と泊原発を占拠するという説もある。

反撃能力かシエルトか。何の危機感も持たないで12月に来年度予算でなどと言っている場合だろうか。

〈筆者略歴〉

株式会社あかりみらい代表取締役。北海道大学卒業後、北海道電力入社。電気事業連合会企画部副部長、北海道洞爺湖サミット道民会議事務局次長、北海道経済同友会などを歴任。電力業界で初代の危機管理担当室長の経験から自治体・企業へのアドバイザーとして活躍。環境・エネルギー問題の専門家。(一社)次亜塩素酸水溶液普及促進会議代表理事、日本除菌連合の会長を務める。札幌にかかできる経済人ネットワーク主宰。

あかりみらい創立10周年記念 全国の自治体へ寄贈

安心給電キット

避難所等自治体の防災用途にお使いください

限定500台
—自治体上限30台まで

自然災害による防災・停電対策に！
コンセント付き公用車が
発電機になる！



次亜塩素酸水 専用超音波噴霧器

自治体・公立学校・保育園・病院・
介護施設等のみなさまに

限定500台
—施設上限30台まで



次亜塩素酸水
専用超音波霧化器
クリアランス AT-45
E.S.1株式会社



超便利な上面給水

高純度次亜塩素酸水溶液

簡単生成パウダー

クリアランスα

1箱寄贈します



株式会社あかりみらい
akarimirai

☎0120-760-814 FAX 011-876-0826

フリーダイヤル受付 (平日9～17時30分)

あかりみらい

検索

<https://www.akarimirai.com>